

令和 3 年 6 月 25 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H01948

研究課題名(和文) 文献学・考古学の協働による紀元前18～8世紀の上メソポタミアの歴史研究

研究課題名(英文) Historical study of Upper Mesopotamia in the 18th-8th centuries BC in cooperation of philology and archaeology

研究代表者

山田 重郎 (Yamada, Shigeo)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：30323223

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,500,000円

研究成果の概要(和文)：前18～8世紀の上メソポタミアの歴史的・文化的変遷の諸相を文献学と考古学の協働により研究した。

考古学分野では、シリア北東部テル・タバンの出土遺物の土器編年や大型建築物の建築・再建の過程、大型・中型墳墓とその副葬品の特徴が分析された。また、イラク・クルド地区のヤシン・テベにおける発掘により新アッシリア時代(前1千年紀前半)の大規模建築物、有力者の地下墓と水路網の痕跡が検出された。文献学分野では、特にテル・タバンの出土文書、エマル出土文書、中・新アッシリア関連の諸文書の研究により、当該地域の政治・行政・宗教文化・暦の変遷などが分析され、考古学的研究の成果とすりあわせて研究された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、我が国の古代西アジア研究において文献学と考古学が分離傾向にある現状を反省し、近年その重要性について認識が高まってきた上メソポタミアの歴史と文化を文献学と考古学の協働で研究する試みである。特に前2～1千年紀の当該地域について我が国の研究者が先駆的研究を行ってきた諸分野(テル・タバンの研究(考古学・文献学)、エマル文書研究(文献学)、アッシリア帝国研究(考古学・文献学))を軸として関連の研究者が集合し、海外の研究者とも連携しながら、共に研究を進めることで、我が国の複数の優れた学術的取り組みを連結し、当該地域の歴史・社会・文化の諸相を複眼的・包括的に分析し、研究を推進して、成果を上げた。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we investigated the historical transition of political and social situation in Upper Mesopotamia during the period of the 18th to the eighth centuries BC from both philological and archeological viewpoints. In the field of archeology, we studied the chronology of ceramic typology, as well as the building and rebuilding process of large structures, excavated at Tell Taban, north-eastern Syria. In addition, we undertook excavations at Yasin Tepe, Iraqi Kurdistan, and uncovered a large building complex from the Neo-Assyrian period, an underground grave of influential people and traces of waterway network. In the field of philology, we studied the changes of the local politics, administration, religious culture, calendars, etc., analyzing especially documents from Tell Taban and Emar, as well as various texts originating in the realm of Assyria. The results of philological and archeological researches were compared and investigated altogether.

研究分野：アッシリア学(楔形文字文書学)

キーワード：古代西アジア史 楔形文字学 考古学 メソポタミア

## 1. 研究開始当初の背景

古代メソポタミアとその周辺の歴史と文化の研究は、19世紀にティグリス・ユーフラテス両河中・下流域(現在のイラク南部)の大規模遺跡の発掘調査とそれに由来する粘土板文書の研究によって開始され、当初このメソポタミア中・南部を中心に進展した。しかし、その後、考古学調査の対象が西アジアの広域に及ぶにつれ、研究の射程は地理的にも年代的にも拡大していった。本研究との関連では、特に1970年代以降、シリア・ジャジラ各地に点在する大規模遺跡の調査が進み、新たな考古学的データと大量の楔形文字史料が発見されたことで、前2千年紀の上メソポタミアの歴史と文化の研究が大いに活性化された(多くのデータを提供した遺跡として:ユーフラテス川中流域のテル・メスケネ(エマル)、テル・ハリリ(マリ)、テル・アシャラ(テルカ)、ハブル川流域のテル・レイラン、テル・フエラ、テル・タバノ、テル・シェイク・ハマド、テル・サビ・アブヤドなど)。また、考古学的調査が停滞していたイラク・クルディスタン地域でも、クルド自治区の治安が2005年以降比較的安定したことで、近年、欧米の発掘隊が調査を開始して、前2千年紀から前1千年紀前半の都市遺構が発掘され、楔形文字文書も出土するなど、新データがもたらされた(カスル・シュマモク、サトゥ・カラ、バクル・アワ、テル・シェムシャラなど)。

日本隊によるテル・タバノ発掘とその出土品・文書の研究: シリア、ハブル川流域の拠点遺跡テル・タバノでは、1997~1999年と2005~2010年に国土館大学による発掘調査が行われ、この調査において我が国の発掘隊としては初めて、多数の楔形文字文書史料(450点以上)が発見された。ハイデルベルク大学のS. M. Maul、筑波大学の山田(研究代表者)と柴田(分担者)がこれらの文書の解読・研究に従事し、前18~12世紀の都市タバトウム/タバト(=現テル・タバノ)とその周辺の歴史的・文化的諸相を明らかにしてきた。特に、(1)前2千年紀前半、ユーフラテス中流域に位置するマリやテルカを拠点とする王国の影響下にあった同市は、前2千年紀後半には、ティグリス中流域を拠点とするアッシリアの影響下に置かれたが、在地領主「マリの地の王」がなお同市の自治的行政権を行使したこと、(2)そのような歴史の変遷にも関わらず、書記伝統や祭儀、暦などにおいて、同市は、前18世紀のマリやテルカと共通の文化的伝統を強固に維持したこと、が解明されている。

エマル文書研究: 80年代末からユーフラテス中上流域のテル・メスケネ(エマル)とその周辺に由来する粘土板文書の公刊と研究を月本(研究協力者)が行ったのを皮切りに、90年代以降、現在まで池田(分担者)と山田雅道(研究協力者)がエマルとその周辺に由来する前14~12世紀の楔形文字文書(法文書、行政文書、宗教・文学文書を含み1000点以上)を研究し、特に当該地域の社会史的研究と言語・書記文化について学界をリードする優れた研究を発表してきた。

アッシリア帝国研究: 本研究のもう一つの背景として、研究の年代的枠組みの下限にあたる前1千年紀前半のアッシリア帝国研究が、大規模史料編集事業(「アッシリア王碑文プロジェクト」[トロント、フィラデルフィア]、「アッシリア王室公文書庫プロジェクト」[ヘルシンキ]など)の進展によって成熟期に入ったことがあげられる。研究代表者は、このうち「アッシリア王碑文プロジェクト」において碑文集成を刊行し、これらのプロジェクトの関係者と新アッシリア研究で協働した(たとえばE. Frahm ed., *Companion to Assyria*に執筆、Conferences: "Writing Neo-Assyrian History" [Helsinki, 2014年]、「Melammu Symposium: Conceptualizing Past, Present and Future" [Helsinki-Tartu, 2015年]などに参加)。

## 2. 研究の目的

上述の研究動向と申請者の研究履歴を踏まえ、サムシ・アッドゥによる上メソポタミアの政治的統一後の前18世紀から上メソポタミア全体が再びアッシリアの行政組織に統合される前8世紀までの期間を対象とし、文書史料と考古学資料を複合的に研究することにより、当該期の歴史的・文化的変遷の諸相を明らかにすることが目標である。その際、我が国の研究者が先駆的に取り組んで来た4つの研究課題を本計画の核として、以下のように設定することで、上メソポタミア全体を視野に収める。

(1)テル・タバノ文書(前18~12世紀)の分析による、ハブル川流域からユーフラテス中流域にかけての歴史・社会・文化の諸相に関する研究。

(2)テル・タバノ出土の中アッシリア時代(前15~12世紀)の主要な遺構・遺物データの考古学的研究。

(3)テル・メスケネ(エマル)出土文書(前14~12世紀)分析を中心とする、ユーフラテス大湾曲部からバリフ川周辺地域の歴史的諸相の研究。

(4)上メソポタミア各地の在地伝統が、アッシリア帝国形成過程(前14世紀から前7世紀)で国内に取り込まれていく歴史的・文化的様相を明らかにする文献学的・考古学的研究。

これらの課題に関する個別研究の成果を研究雑誌等に発表すると同時に、こうした諸研究を束ね、成果を定期的な研究会において共有したうえで、研究組織全体で学際的・包括的歴史研究を構想する。最終年度には、研究を総括する国際会議を開催して、その結果を出版する(ただし、

後述するように、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延のため国際会議の開催は中止した)。

上メソポタミア地域の歴史的重要性についての認識が近年急速に深まるなか、多様な文献学的・考古学的データを視野に収め、この地域の歴史的・文化的諸相を包括的に捉えるべく、複数の個別研究を連携させながら継続的に遂行することをめざした。本研究は、我が国の古代西アジア研究において文献学と考古学が分離傾向にある現状を反省し、先駆的研究分野であるテル・タブン研究(文献・考古)、エマル研究(文献)、アッシリア帝国研究(文献・考古)を軸として諸分野の研究を束ねて推進する。これによって、時代的には前18世紀から前8世紀まで、地理的には、ユーフラテス大彎曲部からユーフラテス中流域とティグリス河谷周辺までの北メソポタミア全体を視野に収めたうえで、我が国の優れた学術的取組を連携させて促進し、当該地域の歴史・社会・文化の諸相と変遷を複眼的・包括的に分析しうる。さらに、当該地域の政治的・文化的再編過程を理解する新たなパラダイムを提案することも含め、国際的にも先駆的な学術貢献を生むことができる。



### 3. 研究の方法

(1) 計画研究班の組織と研究準備:

テル・タブン文書研究班、テル・タブン文書研究班(山田、柴田ならびに研究協力者)、テル・タブン考古学研究班(沼本ならびに研究協力者)、エマル文書研究班(池田ならびに研究協力者)、アッシリア帝国研究班(山田、柴田、沼本、西山ならびに研究協力者)の4つの研究班を組織し、それぞれの研究課題の確認を行った。そのうえで、楔形文字学ならびに西アジア考古学関係の関連資料、出版物等で未入手のものを組織的に収集し、考古遺物の撮影、映像資料・文字資料の管理、作図、原稿作成等に必要な機材(デジタル一眼レフカメラ、コンピュータ及び周辺機器・ソフトウェア等)を入手し、研究を開始した。

(2) 各計画研究班の研究方法:

テル・タブン文書研究班: テル・タブン出土の前18世紀後半の粘土板文書(行政文書、書簡、学校文書)(約30点)、前13世紀後半から前12世紀前半の粘土板文書(行政文書、書簡、宗教文書)(約250点)、前12世紀前半から前11世紀前半の粘土製円筒、釘、レンガに刻まれた建築記念碑文(約200点)の研究・出版準備を進めた。各時代の主要な文書から出版を進めると同時に、文書に基づいた当該地域の歴史と文化についての個別研究を実施し、その成果を論文にまとめた。研究遂行のため、欧米の研究拠点の楔形文字学専門図書館を用いた集中的な調査・研究も行った。

テル・タブン考古学研究班: テル・タブンの土器編年の基礎研究を行ってきた沼本(研究分担者)が、97~99年度の遺跡調査で出土した後、許可を得て日本に持ち出し、現在、国土舘大学沼本研究室にて管理している多量で考古学的コンテキストの明確な土器資料、そして05~10年度の調査で出土した遺物のデータ(写真、実測図等)を整理・分析した。沼本は、これを周辺地域の土器のデータと比較研究し、テル・タブンの土器編年を確立するための研究を進めた。また、発掘記録を詳細に分析して、建築様式と埋葬文化の研究を行った。

エマル文書研究班: エマルとその周辺に由来する前14~12世紀の楔形文字文書(法文書、行政文書、宗教・文学文書を含み1000点以上)の研究を実施した。特に山田雅道(研究協力者)が中心になり、エマルの社会制度(不動産売買、相続、養子縁組など)、宗教文化、言語を分析した。

アッシリア帝国研究班: 前13世紀から前8世紀までの上メソポタミアがアッシリアの州行政システムに再編されていくプロセスを文書資料と考古学的データに基づいて分析した。文献・考古の先行研究を整理したうえで、具体的な研究課題として、文書研究では、「中アッシリア時代

のアッシリアと上メソポタミア各地の政治的・行政的・文化的関係」と「上メソポタミアにおける新アッシリア帝国の行政州システム形成の過程」などを、考古学研究ではテル・タバンを中心とする「上メソポタミア各地の土器編年と物質文化の変遷」の研究、ならびにイラク・クルド自治区のヤシン・テベ遺跡の発掘調査（発掘責任者：西山〔分担者〕）を主要な課題として研究を進めた。

付記：2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響により、海外における調査活動は全面的に中止せざるを得なかった。同様の理由により海外の研究者を招いて行う予定であった国際会議も中止した。こうした障害を、オンラインを活用した海外の研究者・研究機関との連絡・交流で補いつつ、海外渡航の中止により生じた時間を、すでに保有しているデータと新たに収集した研究資料の分析・研究に傾注して活動を継続した。

#### 4. 研究成果

(1) テル・タバンの（タバトゥム/タバトゥ）文書研究：古バビロニア時代書簡史料に基づき、当該期（前18世紀後半）のタバトゥム市の都市景観と都市民に所属する家畜の放牧の場となるステップ地域の景観についての研究が行われ論文がまとめられたほか、バビロンのハンムラビの軍事攻撃によってユーフラテス中流域のマリ王国が滅亡した後（前18世紀後半）に興ったハナ王国の部族的ルーツをテル・タバンのマリ出土の書簡・記念碑文・行政文書に探り、マリ王国とハナ王国が同一部族シマル族に属した公算が強いことを示す論文がまとめられた。また、中アッシリア時代（前13～11世紀）のテル・タバンの出土文書（行政文書・法文書・書簡・建築記念碑文）の文献学的研究から、当時のタバトゥ（テル・タバンの）の行政、外交、書記伝統や行政文書の書式が分析された。また、当該期のタバトゥを取り巻く政治的状況を分析し、アラム系・カルデア系集団の侵入により当該地域の治安が脅かされ、それに供えて防備が整えられる緊迫した状況を明らかにする研究がまとめられたほか、中アッシリア時代のタバトゥで崇拜された神々とその祭儀に関する情報が収集・分析され論文にまとめられた。

(2) テル・タバンの考古学研究：古バビロニア時代から新アッシリア時代（前20～7世紀）のテル・タバンの出土の土器資料の整理・分析が進展し、当該期の建築遺構の分析により、テル・タバンの建築・再建の詳細と文化編年の理解が深められた。特に中アッシリア時代の大型建物の建築・再建の過程と大型・中型墳墓の構造と副葬品の分析が進展し、研究がまとめられた。

(3) エマル文書研究：特にエマル出土の行政文書と書簡（前14～12世紀）の分析に基づいて、当該期のエマル社会における財産相続・婚姻・養子縁組の制度的分析、王権と市行政との法的・政治的関係が解明され、論文にまとめられた。また、前13世紀以降、エマル市がヒッタイトの宗主権下に置かれた状況で、エマル市に対してヒッタイト支配が及ぼした政治的・行政的影響が、考察され、複数の論文がまとめられた。

(4) アッシリア帝国研究：新アッシリア時代の王碑文と編年資料（エボニム・リスト、エボニム年代誌）の書式の研究がまとめられた。またアッシリアによる北メソポタミアならびに東部ザグロス（スレイマニア地域）の帝国支配の変遷ならびに行政的/文化的様相が文書研究によって研究され、複数の論文がまとめられた。アッシリアの東部辺境に当たるイラク・クルド自治区のヤシン・テベ遺跡では、発掘が行われ、中央遺丘周囲に広がる「下の町」の南東部分で新アッシリア時代に由来する公共建築物と見られる中庭を囲む建物群と有力者のものと思われる未盗掘の地下式レンガ墓が発見された。また、中庭からは銘文の付いた青銅製ネックレットやアヒル型石製分銅などが、そして、地下式レンガ墓からは、複数体の人骨とともに、完形の青銅製大型ランプを含む多くの金属製品、テラコッタ製のバスタブ型の棺などが発見され、これらの遺物の分析が行われている。さらに、磁気探査と発掘により、「下の町」に建設されていた水路網の存在も明らかにされ、学界の注目を集めている。

#### 今後の課題と展望

時代的に前18世紀から前8世紀まで、地理的にユーフラテス大彎曲部からユーフラテス中流域とティグリス河谷周辺までの北メソポタミア全体を視野に収めたうえで、我が国の優れた学術的取組を連携させて促進し、国際的に先駆的な学術成果を生み出して、それを学界に発信するという目的は、ある程度果たすことができたと考える。しかし、当該の時代・地域の歴史・社会・文化の諸相と変遷を複眼的・包括的に分析するための重要な機会と考えた国際会議の開催が、新型コロナウイルスの国際的流行が障害になり、実現することができなかったこともあり、当該地域の政治的・文化的再編過程を理解する新たなパラダイムを提案するための取りまとめには、一歩及ばなかった。今後、機会を見て、そうした課題への取り組みを実現したい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計49件（うち査読付論文 16件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 沼本宏俊	4. 巻 3
2. 論文標題 シリア、テル・タバン出土、鉄剣服装の中期アッシリア土壙墓	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新学術領域研究 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究3 研究成果報告2020年度	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masamichi Yamada	4. 巻 -
2. 論文標題 The King of Carchemish and the Hittite Rule of Emar	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa	6. 最初と最後の頁 43-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 8
2. 論文標題 The conquest and reorganization of the land of Zamua / Mazamua in the Assyrian Empire	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studia Chaburensia	6. 最初と最後の頁 167 ~ 193
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.13173/9783347114776_167	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 柴田大輔	4. 巻 3
2. 論文標題 前11・10世紀におけるアッシリア王国の衰退	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究3 研究成果報告2020年度	6. 最初と最後の頁 87 ~ 94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishiyama Shin'ichi	4. 巻 8
2. 論文標題 Provincial control in the eastern reaches of the Assyrian Empire	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studia Chaburensia	6. 最初と最後の頁 45～72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.13173/9783347114776_45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishiyama Shin'ichi	4. 巻 1
2. 論文標題 Archaeological Investigation of Yasin Tepe between 2016 and 2019	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Archaeological Cultural Heritage of Yasin Tepe, Iraqi Kurdistan: Together with the related Techniques for Conservation and Recording of Cultural Heritage	6. 最初と最後の頁 3～81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke and Yamada Shigeo	4. 巻 9
2. 論文標題 Calendars of the Land of Hana and the Middle Assyrian Land of Mari in the Second Millennium BC	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Calendars and Festivals in Mesopotamia in the Third and Second Millennia BC	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Numoto Hirotoshi	4. 巻 3
2. 論文標題 シリア、テル・タバン出土、鉄剣服装の中期アッシリア土壌墓	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新学術領域研究 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究3 研究成果報告2020年度	6. 最初と最後の頁 49～61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Masamichi	4. 巻 55
2. 論文標題 The King of Carchemish and the Hittite Rule of Emar	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 43~61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田雅道	4. 巻 3
2. 論文標題 エマル文書における『主』とは誰か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2：研究成果報告2020年度	6. 最初と最後の頁 69~86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 4
2. 論文標題 The Kingdom of Assyria from Tiglath-pileser I to Ashurnasirpal II	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Oxford History of the Ancient Near East	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 Neo-Assyrian Trading Posts on the East Mediterranean Coast and "Ionians": An Aspect of Assyro-Greek Contact	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa	6. 最初と最後の頁 221-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 sal(a)hum in the Old Babylonian Letters and the Urban Landscape of Upper Mesopotamia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 On Art, on History and on Life: writings, notes, reflections offered to Olivier Rouault	6. 最初と最後の頁 38-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 Sim'alites at Tabatum and the Origin of the Kingdom of the 'Land of Hana'	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 De l'argile au numerique: Melanges assyriologiques en l'honneur de Dominique Charpin	6. 最初と最後の頁 1189-1207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 29
2. 論文標題 Chronographic Styles and the Sense of Chronology in the Neo-Assyrian Royal Inscriptions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Writing Neo-Assyrian History: Sources, problems and approaches, SAAS 29	6. 最初と最後の頁 161-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 55
2. 論文標題 Names of Walls, Gates, and Palatial Structures of Assyrian Royal Cities: Contents, Styles, and Ideology	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 6
2. 論文標題 Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bel-gabbe II, King of the Land of Mari	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Beitraege zur Kenntnis und Deutung altorientalischer Archivalien: Festschrift fuer Helmut Freydank zum 80. Geburtstag, Dubsar 6	6. 最初と最後の頁 409-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 -
2. 論文標題 The Gods of Tabetu during the Middle Assyrian Period and their Genealogy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 De l'argile au numerique: Melanges assyriologiques en l'honneur de Dominique Charpin	6. 最初と最後の頁 943-975
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Masamichi	4. 巻 -
2. 論文標題 The 'Overseers of the Land' in the Emar Texts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa	6. 最初と最後の頁 193-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Masamichi	4. 巻 -
2. 論文標題 The 'Sons of the King' in the Emar Tablets Belonging to the Hirayama Collection	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nouvelles Assyriologiques Breves et Utilitaires	6. 最初と最後の頁 112-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 -
2. 論文標題 鉄器時代施釉土器の分布と系譜：ザグロス山系からレヴァント地方まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学会・第24回総会・大会要旨集	6. 最初と最後の頁 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 -
2. 論文標題 レヴァント回廊の歴史を探る 第5次 (2019年) ・フェニキアの港バトルーン遺跡の試掘調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 35-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一	4. 巻 -
2. 論文標題 アッシリア帝国東部境界を掘る イラク・クルディスタン、ヤシン・テベ考古学プロジェクト・第4次 (2019年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 第27回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 Neo-Assyrian Eponym Lists and Eponym Chronicles: Contents, stylistic variants and their historical-ideological background	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 S. Fink and R. Rollinger (eds.), Conceptualizing Past, Present and Future. Proceedings of the Ninth Symposium of the Melammu Project	6. 最初と最後の頁 75-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirotooshi Numoto, Daisuke Shibata, Shigeo Yamada	4. 巻 -
2. 論文標題 Excavations at Tell Taban: Culture and history at Tabatum/Tabetu during the second millennium B.C	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 S. Nishiyama and J. Abdul Massih (eds.), Archaeological Explorations in Syria 2000-2011	6. 最初と最後の頁 133-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 Neo-Assyrian Trading Posts on the East Mediterranean Coast and " Ionians: An Aspect of Assyro-Greek Contact	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa	6. 最初と最後の頁 221-235
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 -
2. 論文標題 Middle Assyrian Legal Documents of Adad-bel-gabbe II, King of the Land of Mari	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Beitrage zur Kenntnis und Deutung altorientalischer Archivalien: Festschrift fur Helmut Freydank zum 80. Geburtstag	6. 最初と最後の頁 409-437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Masamichi	4. 巻 4
2. 論文標題 On qatatu in the MB Alalah Texts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studia Mesopotamica	6. 最初と最後の頁 219-211;230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimogama Kazuya	4. 巻 2
2. 論文標題 The Japanese Excavations at Tell Ali al-Hajj, Rumeilah, on the Euphrates: Settlement, Material Culture and Chronology	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 10th International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East, Volume 2: Excavation Reports & Summaries	6. 最初と最後の頁 627-638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一・H. Hama Abdullah・山田重郎・沼本宏俊・常木晃	4. 巻 -
2. 論文標題 アッシリア帝国東部辺境を掘る イラク・クルディスタン、ヤシン・テベ考古学プロジェクト第3次 (2018年)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第26回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 109-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 The Transition Period	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 E. Frahm (ed.), Companion to Assyria	6. 最初と最後の頁 108-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Keiko, and Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 Shalmaneser V and His Era, Revisited	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 A. Baruchi-Unna et al. eds., "Now It Happened in Those Days": Studies in Biblical, Assyrian, and Other Ancient Near Eastern Historiography	6. 最初と最後の頁 341-391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 -
2. 論文標題 Chronographic Styles and the Sense of Chronology in the Neo-Assyrian Royal Inscriptions	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 G.-B. Lanfranchi, R. Mattila and R. Rollinger (eds.), Writing Neo-Assyrian History: Sources, Problems and Approaches	6. 最初と最後の頁 161-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamada Shigeo	4. 巻 9
2. 論文標題 Neo-Assyrian Eponym Lists and Eponym Chronicles: Contents, stylistic variants and their historical-ideological background	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Melammu Symposia	6. 最初と最後の頁 75-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 -
2. 論文標題 An Expedition of King Shalmaneser I and Prince Tukulti-Ninurta to Carchemish	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Y. Heffron, M. Worthington and A. Stone (eds.), At the Dawn of History: Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate	6. 最初と最後の頁 491-506
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shibata Daisuke	4. 巻 -
2. 論文標題 Die sumerischen exegetischen Epitheta des Marduk	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 S. Fink, M. Lang and M. Schretter (eds.), Mehrsprachigkeit: Vom Alten Orient bis zum Esperanto	6. 最初と最後の頁 195-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常木晃・渡部展也・安間了・西山伸一、ワラ・カリム・サリ	4. 巻 -
2. 論文標題 肥沃な三日月地帯東部の新石器化 イラク・クルディスタン、スレマニ地域チャルモ遺跡、トゥルカカ遺跡の調査(2017年)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第25回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 下釜和也	4. 巻 -
2. 論文標題 シリア青銅器時代のモニュメント--記憶・社会・権力--	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本西アジア考古学会第22回総会・大会要旨集	6. 最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masamichi Yamada	4. 巻 22 (2016)
2. 論文標題 RE 6 as a Unique Contract of Caring in Emar	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Zeitschrift fuer Altorientalische und Biblische Rechtsgeschichte	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masamichi Yamada	4. 巻 52
2. 論文標題 The Arana Documents from Emar Revisited	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 121-133
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一、ハーシム・ハマー・アブダッラー、常木晃、山田重郎、沼本宏俊	4. 巻 -
2. 論文標題 アッシリア帝国東部辺境を掘る イラク・クルディスタン、ヤシン・テベ考古学プロジェクト・第2次 (2017年)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第25回西アジア発掘報告会報告集	6. 最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Watanabe Chikako E.	4. 巻 -
2. 論文標題 Association of the dog with healing power in Mesopotamia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 M. Worthington and A. N. Stone (eds.), At the Dawn of History: Ancient Near Eastern Studies in Honour of J. N. Postgate	6. 最初と最後の頁 689-697
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 A. Hasegawa, S. Yamada and Barzan Baiz Ismail	4. 巻 37
2. 論文標題 "Archaeological Investigation at Grd-i Tle in the Ranya Plain, Iraqi Kurdistan"	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Al-Rafidan	6. 最初と最後の頁 143-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 J. Llop and D. Shibata	4. 巻 68
2. 論文標題 The Royal Journey in the Middle Assyrian Period	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Cuneiform Studies	6. 最初と最後の頁 67-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5615/jcunestud.68.2016.0067	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西山伸一・常木晃・H. H. アブドゥッラー・沼本宏俊・山田重郎・渡部展也	4. 巻 24
2. 論文標題 アッシリア帝国東部辺境を掘る イラク・クルディスタン、ヤシン・テベ考古学プロジェクト・第1次 (2016年)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 第24回西アジア発掘調査報告会報告集	6. 最初と最後の頁 136-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 K. Shimogama	4. 巻 35
2. 論文標題 Graves Before Settlement: the Early Bronze Age Extramural Cemetery and the Sedentary Settlement of Tell Ali al-Hajj at Rumeilah on the Syrian Middle Euphrates	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Bulletin of the Ancient Orient Museum	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 S. Kume, Y. Miyata and S. Kadowaki	4. 巻 38
2. 論文標題 Feasting with the dead on the Euphrates: Stable isotope analysis of carbonized residues on Early Bronze Age ceramics from the cemetery near Tell Ghanem al- 'Ali	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Al-Rafidan	6. 最初と最後の頁 95-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 M. Yamada	4. 巻 84
2. 論文標題 The Land of Ashtata in the 14th Century B.C. before the Hittite Conquest	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Orientalia	6. 最初と最後の頁 276-291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 M. Yamada	4. 巻 47
2. 論文標題 Did terhatu Mean 'Dowry' in Emar	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Ugarit-Forschungen	6. 最初と最後の頁 415-430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計57件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 ハナ王国の起源と暦
3. 学会等名 第63回シュメール研究会 (Zoomウェブ会議)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 被征服民のアッシリア帝国への帰属をめぐる一考察
3. 学会等名 日本オリエント学会第62会大会 (名古屋大学、オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西山伸一・H. Hama Abdullah・山田重郎・沼本宏俊
2. 発表標題 アッシリア帝国東部辺境を掘る イラク・クルディスタン、ヤシン・テペ考古学プロジェクト・2020年の進展
3. 学会等名 第28回西アジア発掘調査報告会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 「Palace Ware」とアッシリア帝国：その展開と利用のヴァリエーションに関する考察
3. 学会等名 日本西アジア考古学会・第25回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 テル・タバンの出土アッシュル・ケタ・レシル2世の記念碑文とその歴史的背景
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバンの遺跡とヤシン・テベ遺跡の調査成果から」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沼本宏俊
2. 発表標題 テル・タバンの出土、中・新アッシリアの遺構と土器変遷
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバンの遺跡とヤシン・テベ遺跡の調査成果から」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 ヤシン・テベ出土ネックレス碑文
3. 学会等名 第62回シュメール研究会、京都大学ユーラシア文化センター、京都
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 D. Shibata, S. Yamada
2. 発表標題 The Building Inscriptions of Assur-ketta-lesir II, "King of the Land of Mari," in the Late Middle Assyrian Period: Their Historical Implications
3. 学会等名 65e Rencontre Assyriologique Internationale, College de France, Paris (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamada Shigeo
2. 発表標題 Names of Walls, Gates and Palatial Structures in Assyrian Royal Cities: Their Contents, Styles and Ideology
3. 学会等名 ASOR Meeting, Westin San Diego, USA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamada Shigeo
2. 発表標題 'Like that of Assyrians': A reflection on the imposed Assyrian identity over the extended imperial territory
3. 学会等名 Workshop: The Neo-Assyrian King as a nodal point of Neo-Assyrian Identity, University of Helsinki, Finland (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 前10-9世紀におけるアッシリアのシャフリゾール征服プロセス
3. 学会等名 研究会「文献学と考古学からみる上メソポタミアの諸問題」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 デヴィッド・ソフェル・コレクション所蔵テル・タバンの資料と前12・11世紀におけるアラム人・カルデア人問題
3. 学会等名 第62回シュメール研究会、京都大学大学院文学研究科附属コーラシア文化研究センター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 テル・タバンの出土アッシュル・ケタ・レシル2世の記念碑文とその歴史的背景
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバンの遺跡とヤシン・テベ遺跡の調査成果から」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 ヤシン・テベ出土ネックレス碑文 文書の詳細とその文献学的・歴史学的分析
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバンの遺跡とヤシン・テベ遺跡の調査成果から」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沼本広俊
2. 発表標題 テル・タバンの出土古バビロニア土器とミッタニ土器
3. 学会等名 研究会「文献学と考古学からみる上メソポタミアの諸問題」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 沼本広俊
2. 発表標題 テル・タバンの出土、中・新アッシリアの遺構と土器変遷
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タバンの遺跡とヤシン・テペ遺跡の調査成果から」筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 エマル文書におけるalmattu-azibtu規定：新史料Fs0-T 2の検討
3. 学会等名 研究会「文献学・考古学からみる上メソポタミアの諸問題」、筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 近刊のエマル文書2点について
3. 学会等名 第62回シュメール研究会、京都大学ユーラシア文化研究センター
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishiyama Shin'ichi
2. 発表標題 A Neo-Assyrian Border City: Yasin Tepe Archaeological Project in Sulaymaniyah Governorate, Iraqi Kurdistan
3. 学会等名 ASOR Annual Meeting 2019, San Diego, CA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 考古学から見たヤシン・テペ：新アッシリア時代の拠点都市と属州支配
3. 学会等名 研究会「アッシリアの属国と属州：テル・タブンとヤシン・テペの調査成果から」、筑波大学東京キャンパス文京校舎
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 アッシリアの王都における市壁、門、王宮の名称について
3. 学会等名 第61回シュメール研究会（立教大学12号館、東京都豊島区）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Shigeo
2. 発表標題 Landscape of Tabatum as Seen in the Old Babylonian Letters from Tell Taban
3. 学会等名 64th Rencontre Assyriologique Internationale (University of Innsbruck, Austria) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Shigeo
2. 発表標題 Topographical Terminology in Cuneiform Texts
3. 学会等名 Workshop: The Mesopotamian Landscape Archaeology: Recent Researches in Iraqi-Kurdistana (Room 121, Tokyo Campus, University of Tsukuba, 文京区) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shibata Daisuke
2. 発表標題 A Middle Assyrian Manuscript of a Therapeutic Treatise: "Prescriptions of Adapa"
3. 学会等名 64th Rencontre Assyriologique Internationale (University of Innsbruck, Austria) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 kasadu考：財産相続に関するエマル・エカルテ文書の事例を中心に
3. 学会等名 第61回シュメール研究会（立教大学、豊島区）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 王 vs. 市神：エマル文書における『主』とは誰か
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shimogama Kazuya
2. 発表標題 People and Graves Before Settlement: Pursuing Early Bronze Age Mobility at Rumeilah on the Middle Euphrates
3. 学会等名 11th International Congress on the Archaeology of Ancient Near East (Ludwig-Maximilians-Universität München, Munich, Germany) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishiyama Shin'ichi
2. 発表標題 Report on the Ceramics recovered from the Southern Beqaa Survey Project
3. 学会等名 IFPO & DGA Lebanon organized workshop "Ceramic Studies in the Bekaa Valley: A Regional Perspective" (Beirut, Lebanon) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nishiyama Shin'ichi
2. 発表標題 北レヴァント鉄器時代エジプト系遺物の出現、分布、地中海交易
3. 学会等名 第23回日本西アジア考古学会大会(金沢大学、金沢市)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishiyama Shin'ichi
2. 発表標題 西アジア鉄器時代集落の構造的考察 北メソポタミアおよびレヴァント地方における「都市」と「村落」クラス集落の比較から
3. 学会等名 日本オリエント学会第60回大会(京都大学、京都市)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 古バビロニア時代書簡史料にみるsal(a)humと都市の景観
3. 学会等名 第60回シュメール研究会、京都大学ユーラシア文化研究センター(京都市)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 テル・タバンの出土イティ・スムアビ書簡に見る前18世紀後半のタバトゥム
3. 学会等名 第59回日本オリエント学会、東京大学本郷キャンパス（東京都文京区）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamada Shigeo
2. 発表標題 Excavations at Yasin Tepe and Its Historical Context
3. 学会等名 Workshop: Between the Zagros and Mesopotamia. Archaeology of the Diyala Valley in Iraq、東京大学総合研究博物館（東京都文京区）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamada Shigeo
2. 発表標題 Names of Walls, Gates and Palatial Structures in Assyrian Royal Cities: Contents, Styles and Ideology
3. 学会等名 Ancient Near Eastern Royal Ideology, Doshisha University (Kyoto) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shibata Daisuke
2. 発表標題 Ein mittelassyrisches Exemplar des therapeutischen Texts aus Tell Taban: Zur babylonisch-assyrischen Gelehrsamkeit in einem kleinen lokalen Koenigreich im spaeten 2. Jt. v. Chr.
3. 学会等名 Assur und Assyrien - Neue Funde und Forschungen: Tagung der Forschungsstelle, Heidelberger Akademie der Wissenschaften (Heidelberg, Germany) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shibata Daisuke
2. 発表標題 Das lokale Koenigreich Land Mari in der mittellassyrischen Zeit: Dynastie, Schreibpraxis, Goetterkult, Kalender und Ende des lokalen Koenigreiches
3. 学会等名 Julius Maximilians University of Wuerzburg (Wuerzburg, Germany) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shibata Daisuke
2. 発表標題 Das lokale Koenigreich Land Mari in der mittellassyrischen Zeit: Dynastie, Kult und Gelehrsamkeit
3. 学会等名 Free University of Berlin (Berlin, Germany) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shibata Daisuke
2. 発表標題 A Cylinder Inscription of Assur-ketta-lesir II
3. 学会等名 Ludwig Maximilian University of Munich (Munich, Germany)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安間 了・申基澈・中野孝教・渡辺千香子
2. 発表標題 メソポタミア氾濫源堆積物および粘土製品の化学組成・同位体組成から読みとる粘土テクノロジーの発達と都市鉱山化過程
3. 学会等名 第7回同位体環境学シンポジウム、総合地球環境学研究所（京都市）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下釜和也
2. 発表標題 シリア青銅器時代のモニュメントー記憶・社会・権力ー
3. 学会等名 日本西アジア考古学会第22回総大会学会設立20周年記念セッション、天理大学（奈良県天理市）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 エマル・エカルテ文書における lu2.mes.ahhu “兄弟たち”
3. 学会等名 シュメール研究会、京都大学（京都市）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 quburu考：エマルにおける祖先崇拜の様相
3. 学会等名 日本オリエント学会第59回大会、東京大学（東京都文京区）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yamada Masamichi
2. 発表標題 The King of Carchemish as the Overlord of Emar
3. 学会等名 Workshop: Ancient Near Eastern Royal Ideology, 同志社大学（京都市）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishiyama Shin'ichi
2. 発表標題 Iron Age Village and City in Iraqi Kurdistan: Results from Qalat Said Ahmadan and Yasin Tepe
3. 学会等名 ASOR (American Schools of Oriental Research) 2017 Annual Meeting, Boston (The Westin Boston Waterfront), USA
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 アッシリア帝国東部における物質文化と地方統治形態 : Yasin Tepe Archaeological Projectの成果から
3. 学会等名 日本オリエント学会第59回大会、東京大学本郷キャンパス (東京都文京区)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Watanabe Chikako E., and Novotny Jamie
2. 発表標題 Recording an Assyrian Battle: A Look at the Assyrian-Elamite Conflict at Til-Tuba in Textual and Visual Sources, Battle descriptions as literary texts: a comparative approach
3. 学会等名 Interdisciplinary conference, Innsbruck, Austria
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺千香子・J. ノヴォトニー
2. 発表標題 アッシュルバニパルのバビロン戦利品観閲図における「第二の男」の謎
3. 学会等名 第60回シュメール研究会 京都大学ユーラシア文化研究センター羽田会館 (京都)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Watanabe Chikako E., and Novotny Jamie
2. 発表標題 A Series of (Un)fortunate Events: Visual and Textual Representations as Witnesses to the Death of Teumman at Til-Tuba
3. 学会等名 63rd Rencontre Assyriologique Internationale, University of Marburg, Marburg, Germany
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 渡辺千香子・J. ノヴォトニー
2. 発表標題 ティル・トゥーバの戦い：浮彫りと文献からの考察
3. 学会等名 第59回日本オリエント学会 東京大学（東京都文京区）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田重郎
2. 発表標題 新アッシリア時代のエポニム表とエポニム年代誌：内容・形式の変化とその歴史的・思想的背景
3. 学会等名 第59回シュメール研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 S. Yamada
2. 発表標題 Is Yasin-Tepe identified with Atlila/Dur-Assur?
3. 学会等名 Workshop: "Neo-Assyrian Empire, Tell Taynat and Yasin Tepe" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 新アッシリア時代におけるニネヴェのイシュタル
3. 学会等名 第59回シュメール研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 柴田大輔
2. 発表標題 紀元前7世紀ニネヴェ市におけるアッシュルバニパル王の図書館
3. 学会等名 ワークショップ「文字に声を聞こう！」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 S. Nishiyama
2. 発表標題 Iron Age “Fortified” Rural Settlement in Iraqi Kurdistan: Results from Qalat Said Ahmadan
3. 学会等名 10 ICAANE (International Congress for Archaeology of the Ancient Near East)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西山伸一
2. 発表標題 ペシュダール平原とシャフリゾール平原の鉄器時代
3. 学会等名 日本西アジア考古学会 第21回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 S. Nishiyama
2. 発表標題 Iron Age settlements in the east and west of the Assyrian Empire: Yasin Tepe (Iraqi Kurdistan) and Tell Mastuma (Syria)
3. 学会等名 IFPO (Institut français du Proche-Orient) Iron Age Seminar
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山田雅道
2. 発表標題 エマル文書に見る妻の再婚：是か非か
3. 学会等名 第59回シュメール研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Ichiro Nakata, Yoshihiro Nishiaki, Takahiro Odaka, Masamichi Yamada, Shigeo Yamada	4. 発行年 2019年
2. 出版社 The Society for Near Eastern Studies in Japan	5. 総ページ数 280
3. 書名 Prince of the Orient: Ancient Near Eastern Studies in Memory of H. I. H. Prince Takahito Mikasa	

1. 著者名 S. Nishiyama, H. Hama Abdullah, O. S. M. Amin	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Karo Printing	5. 総ページ数 35
3. 書名 The Slemani Museum: Guidebook, Sulaymaniyah	

1. 著者名 S. Yamada and D. Shibata (eds.)	4. 発行年 2016年
2. 出版社 Harrassowitz Verlag	5. 総ページ数 205
3. 書名 Cultures and Societies in the Middle Euphrates and Habur Areas in the Second Millennium BC, vol. 1: Scribal Education and Scribal Traditions	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	沼本 宏俊  (Numoto Hirotooshi)  (40198560)	国土舘大学・体育学部・教授   (32616)	
研究分担者	柴田 大輔  (Shibata Daisuke)  (40553293)	筑波大学・人文社会系・准教授   (12102)	
研究分担者	西山 伸一  (Nishiyama Shinichi)  (50392551)	中部大学・人文学部・准教授   (33910)	
研究分担者	池田 潤  (Ikeda Jun)  (60288850)	筑波大学・人文社会系・教授   (12102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	渡辺 千香子  (Watanabe Chikako)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	山田 雅道  (Yamada Masamichi)		
研究協力者	月本 昭男  (Tsukimoto Akio)		
研究協力者	下釜 和也  (Shimogama Kazuya)		
研究協力者	久米 正吾  (Kume Shougo)		
研究協力者	安間 了  (Anma Ryou)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関